

株式会社 カシヤマ

環境に優しく、
取扱いが容易で安全な
消石灰抗菌防虫幹巻テープ

事業内容

帆布をベースとしたテント、看板、抗菌シートを展開

テントなどの膜構造物からオーニングまでの帆布製品や、フレキシブルフェイス（FF）シートやアクリル素材の電飾看板など多様な看板の設計・製作・施工を手がけている。創業は昭和37年、テント事業からスタート。その後、帆布が綿から化学繊維となり、堅牢でカラフル、透光性が良くなり看板業界でも使用され始めた。トレンドを読む中で創業者の榎山喜世司取締役会長は、看板業界への進出を決断。業容や取引先の拡大も見据え、昭和46年に同社を設立した。

近畿の官公庁、建築業者、一般事業主が顧客

高度経済成長のもと建物や施設が多様化する中、比例してテント、看板業界は大きく伸展した。元来、テントや看板は一品一様が大半で、多様なニーズ対応が求められる。同社は近畿を中心とする多くの顧客要望に応え、公共施設や商業施設、マンション、小売店などで多数の実績を積み重ね、信用を勝ち得てきた。

株式会社 カシヤマ

代表取締役 榎山 宗嗣
〒590-0026 大阪府堺市堺区向陵西町3-1-30
TEL. 072-221-6611 FAX. 072-221-3335
資本金/100,000千円 従業員/11名
主な取引先/建築会社など
主な保有設備/工業用マシン2台、高周波ウェルダ1台、
カッティングマシン1台、溶接機3台、
高所作業車(建柱装置付)1台
主力製品/屋上用や壁付けなどの各種看板、テント
倉庫やオーニングほか各種テントおよび
シート

短納期 企画力 小ロット OK オンライン 連携力

補助事業

ヒントは消石灰塗布抗菌シートと害虫防除

培った帆布の知見と蓄積技術を活用し、平成27年に果樹などの樹木向け防虫対策用製品の開発に着手した。榎山取締役会長が理事長を務める日本帆布製品販売協同組合（堺市堺区、日帆協）が開発した抗菌機能などを持つ消石灰シートをヒントに、防虫効果と還土性を備え、扱いやすい製品を目指した。消石灰は水との反応で強いアルカリ性となり、土壌改良に使われるほか、野生動物や昆虫類に対する忌避効果、抗菌作用なども得られる。

極薄綿帆布採用で環境性と還土性確保

日帆協の消石灰シートはテントなどに用いるため塩化ビニル樹脂（PVC）防水生地を使っているが、開発した「消石灰抗菌防虫幹巻テープ」は環境と自然分解（環土性）を重視し、基布は天然繊維から選定した。天竺や金巾などの薄布、薄物帆布など、数種類の生地で試作を重ね、綿帆布を採用した。厚さ0.1mmの極薄生地に同0.3mmの厚みで消石灰を塗布した。開発を主導した榎山取締役会長は「生地選定、塗布工程は試行錯誤の繰り返しだった」と振り返る。

クラフツマンシップ

代表取締役 榎山 宗嗣

テントと看板を通じ、社会に貢献しています。日本人が大切にしてきた感性とクラフツマンシップを備えた当社技能士達が思いを込めて、ものづくりと向き合い、技術の向上と技能の伝承にも積極的に取り組んでいます。



消石灰抗菌防虫幹巻テープ

桃の木に
巻き付けた施工例温州ミカンの
木への
施工の様子

具体的成果

大阪府立産技研や現場実証で効果確認

「消石灰抗菌防虫幹巻テープ」は平成28年8月に発売した。製品ラインアップは幅が50mm、75mm、100mmの3サイズで、長さは5m巻、10m巻、20m巻を用意した。昆虫類の忌避効果や効果有効期間は、地方独立行政法人大阪府立産業技術総合研究所での試験と、8カ所の農園や庭園の500本での実証実験で確認した。効能期間は約2ヵ月で、梅雨時期は少し短くなる。使い方は根元から30—50cm上の辺りや、枝分かれ箇所などに巻くだけ。朝晩の露でテープと水分が反応し、ほとんどの虫が寄りつかなくなる。枝先などに発生した場合は、「テープを水に浸して水溶液をつくり、吹きかければ効果が得られる」という。

販売は日帆協が全面支援

製造元はカシヤマ、全国組織の日帆協が発売元となり、所属する組合員が主体となって販売活動に取り組んでいる。近年はガーデンニングやDIY、ペットがブーム。庭などの木に虫が発生して殺虫剤をまくと、ペットに悪影響を及ぼす恐れがある。だが、消石灰抗菌防虫幹巻テープはそういった心配が不要だ。粉状消石灰のような飛散することなく、使用後は根元に置けば、綿も消石灰も2年ほどで自然に土に戻り、環境にも配慮した製品となった。

今後の戦略

大手量販店、一般家庭などへ販路拡大を狙う

農業、林業、公園、土木、建築、造園業など、消石灰抗菌防虫幹巻テープはあらゆる場所で活躍が期待でき、販売実績を確実に積み上げつつ、ホームセンターや造園業などにも売り込んでいる。前栽やベランダを備えた一般家庭、オフィスなどに向けてインターネット販売も開始した。消石灰は古くから殺菌・防虫対策に使われてきたが、これまでは粉末での使用が一般的で、飛散による薬効期間の短さなどが欠点だった。幹巻テープはこれらの問題を解決したオンリーワン商品だ。

アイデアは尽きない

帆布は厚手の丈夫な綿布で、船の帆に使われていたのが名前の起源。イギリスからアメリカに移り住んだ開拓民は丈夫な布を馬車の屋根やジーンズにし、日本では明治頃にテントやお酒のコシ布、かばんをはじめ、多種多様な用途で使われ、今も用途開発が盛んだ。

同社の柱事業の1つである看板業界でも活躍している。近年では軽量で耐久性の高い「透光性帆布膜構造のLED電飾看板」の受注が増えている。そこで榎山取締役会長は消石灰抗菌防虫幹巻テープの普及拡大と並行し、同看板の製品付加価値を高めて競合他社との差別化を狙った独自部品の開発も推進するなどアイデアは尽きない。

取材を終えて

次代を担う看板商品

学校の運動会などでおなじみのテント、街中の至る所で見かける大小の看板などをメインに手がけているのがカシヤマ。そんな企業が消石灰抗菌防虫幹巻テープを開発したと聞き、最初はイメージがすぐにわいてこなかった。だが、帆布にまつわるお話を伺い納得した。人口や新築建物の減少に加え、大型商業施設の増加と個人商店の減少などでテント・看板業界を取り巻く環境は厳しいが、次代を担う看板商品に期待が膨らむ。